



あいご



NO
WAR



園通信 令和8年5月1日 第2号
キッドワールドセカンドこども園
園長 高木 良司

風薫る5月。青い空が澄みわたり、若葉がきれいな新緑の季節になりました。

新しくキッドワールドセカンドこども園の仲間になった園児たちは、新しい環境の中で興味のあるものを見つけられるようになり、安心してるところです。

さて、5月の大きなめあては「ぬくもり」です。人間は、一人一人違う個体で興味や関心もそれぞれであり、好奇心を抱いてそれにアプローチする姿は100人いれば100通りあります。これは子どもにとっても同じことで、同じ場所に散歩に行っても興味や関心を寄せる場面は10人いれば10通りあります。こども園においても園児のアプローチは様々で、思うようにいかないときやくじけそうなときは保育教諭に助けを求めてくることがあります。こども園には、そのようなときに園児に十分な「ぬくもり」を与え、もう一度挑戦する気持ちを蓄えるために保育教諭がいるのです。必要な場面で十分な「ぬくもり」を与えられるあたたかいこども園でありたいと思います。

<今後の予定>

5月 2日(土) お弁当日🍱

5月11日～ 身体計測週間(すもも・かりん・れもんぐみ)

5月11日(月) 聴力検査(すももぐみ)

5月12日(火) 聴力検査(かりんぐみ)

5月13日(水) 聴力検査(れもんぐみ)、避難訓練(大地震、大津波警報発令想定)

5月18日～ 身体計測週間(いちご・あんず・きういぐみ)

5月25日(月) 誕生会

5月26日(火) 健康診断



お見知り(対面)式

4月10日(金)、お見知り(対面)式をしました。

新しいクラスになり、新しいお友だちを迎え、新しい先生先生となり、初めての顔合わせでした。

進級した喜びを味わうとともに、どの先生がどのクラスの担任になったのかや、新しいお友だちの名前の紹介がありました。1年間、楽しく過ごしましょう！



園長の挨拶



新しいお友だちの紹介です



新しい先生の紹介(顔写真)です

コラム 79：子どもが望む大人の世界⑦ ～17の子どもの願い～

キッドワールド総合園長 牧野 桂一

前回までに紹介しきれなかった⑬番目にあたる「子どものあるがままの姿を受け入れる」以下の項目について、今回も同じように順次紹介していきたいと思います。

最初には、⑬番目にあたる「子どものあるがままの姿を受け入れる」から始めていきたいと思えます。

「子どものあるがままを受け入れる」ということは、子どもの性格や感じ方、得意不得意、言動などの背景にある子どもの気持ちを否定しないで、「そう感じているんだね」「あなたはあなたでいいんだよ」と一人一人の子どもの生きている土台で認め、子どもの「あるがまま、そのまま」を大事に受け止めるということなのです。

ここで考えておかなければならない問題として、「子どものあるがままの姿を受け入れる」ということが、「子どもたちのすることなすことを全て許す」という意味ではなく、「子どもの人間としての存在」と「子どもの行動」を分けて考えるということです。子どもの人間としての存在はきちんと認めるけれども行いの間違っていることはそのままでは認められないという姿勢が大切になります。ですから、子どもたちは「自分にダメなところがあっても間違いをしても基本的には人間として愛されている」ということが実感でき、「自分はここにいていいのだ」「自分は人間として認められているのだ」という感覚をもてるように育てることが重要になります。そうすると、子どもたちは失敗しても立ち直ることができ、新しいことにも挑戦することができるようになります。このように自分の感情を頭ごなしに否定されずに聞いてもらえる経験が増えいくと、子どもの中には自尊心と自己肯定感が育ち、自分の「怒ってる」「悲しい」「悔しい」「嬉しい」気持ちを安心して表現し、自分の気持ちを言葉にすることができるようになります。そして「困ったときはお父さんやお母さんに話しても大丈夫」という信頼感が積み上がり、将来子どもが人間関係でトラブルになった時に「自分の気持ちを伝えて解決する力」も育ってきます。そして、また、思春期など成長の難しい時期になった時も、このような信頼が育っていると子どもは心を閉ざしてしまう可能性が低くなります。



子どもと生活していると、時には子どもの行動で保護者にとってとても困るような場面が起こることがあります。そのようなときには、子どもの行動と気持ちを分けて考え、その子の行動は認められなくても「子どもの気持ち」自体は受け止めることができるようになり、親子の信頼関係をより一層高めていくことができるようになります。

例えば、着替えをしないでゲームばかりしているような場合にも、「ゲームしたい気持ちはわかるよ。でも今は着替えをしないと間に合わなくなるよね。どうしようか、お母さんと一緒に着替えをしようか。」というように子どもの気持ちを認めた上で、行動を誘い「ルールや社会的に必要なことは、大人がきちんと伝える」ようにすることで、子どもは「ダメ出しされている。叱られている。否定されている。」というのではなく「一緒に考えてもらっている。認めて貰っている。」と感じるようになり保護者の言葉を受け入れ、信頼関係を深めていけるようになります。



子どものあるがままを受け入れるということは、時には保護者にとってとても難しいこともあります。保護者としては、忙しかったり、イライラすることがあったりして、「子どもを受け入れられていない」と感じる自分に責任を感じて自分を責めることもあると思いますが、そのような時、自分を責めすぎないことも大切なことです。保護者も一人の人間ですから、「今日は余裕がないな」「今日はイライラしているな」と自分に気づけるだけでも、その心は子どもにはどこかで通じているところがあるものです。「子どものあらゆることを完璧に受け入れる保護者」になるというのではなく、「親としての心が揺れながらも、また迷いながらも、少しずつ子どもの気持ちを理解し、寄り添っている保護者」であれば、それだけで子どもにとって安心できる存在になります。ですから、「子どものあるがままの姿を受け入れることが大切」ということを知り理解するということは、子どもとの信頼関係を作っていく上で大切な一歩になるのです。

一方、「子どものあるがままの姿を受け入れる」ことで保護者自身も子育てが少し楽になります。「もっと○○○できるはず」「他の子みたいにしてほしい」と常に「保護者の描く理想の姿」と比べていると、保護者の方も疲れてしまいます。「この子は今はこういうペースなんだな」と一度子どものあるがままを受け入れることで、①イライラが少し和らぐ、②子どもの小さな成長に気づきやすくなる、というようなメリットもあります。

ここで、「子どものあるがままの姿を受け入れる」ためには、具体的にどうすればよいかということを考えてみたいと思います。

まず最初は、「あるがままの子どもの気持ちを言葉にして代弁する」ということです。その例としては、次のような関わり方があります。

- ① 途中で遊びを中断しなければならない子どもに対して「もっと遊びたかったんだね、楽しかったもんね」と気持ちを受け止めてあげると子どもは気持ちを切り替えやすくなります。
- ② 遊びで負けて悔しがっている子どもに対して「負けて悔しかったんだね、本気で頑張ってたもんね」と共感してあげると、負けたことを受け入れて、前向きにまたお母さんと一緒に頑張ろうという元気が出てきます。

このように、まず子どもの気持ちを受け止めてから、「でも時間になったから帰ろうね」「叩くのはやめようね」と行動のルールや社会のきまりを伝えると、子どもも肯定的に受け止めて、保護者の言うことを納得しやすくなります。

次に大切なこととして、子どもたちを比べずに「一人一人、あるがまま(その子基準)」で見ることがあります。一人一人の子どもを周りの子どもたちや兄弟姉妹と比べる代わりに、「昨日より少しできるようになったこと」「この子なりに頑張っていること」に目を向けると、ありのままの子どもを受け入れ易くなります。この機会にこのようなことを考えながら子どもとの関わりを考え直していただけると子育てがこれまで以上に楽しいものになると思います。

今回もまた、紙面の都合で紹介しようと思っていた項目を全て紹介することはできませんでしたので、次回には、⑭明るくてほほ笑みの多い保護者になる、⑮ユーモアに富んだ保護者になる、⑯子どもの名前をいっぱい呼んであげる、⑰人として美しい親になる、などについて紹介していきたいと思います。

